

天狗笑

豊島与志雄

青空文庫

むかし、ある山裾やますそに、小さな村がありました。村のうしろは、大きな森から山になっていまして、前は、広い平野にうつくしい小川が流れていました。村の人たちは、平野をひらいて穀物こくもつや野菜を作ったり、野原に牛や馬を飼ったりして、たのしく平和に暮らしていました。

村の人たちは皆仲よしでした。それで、子供たちも皆お友だちでした。大人おとなたちがたんぼや牧場で働いている間、子供たちは一しよにあつまって仲よく遊びました。

ある夏の初め、子供たちはいつものように、一しよにあつまって、村のうしろの森のはずれの原っぱで、土盛りつちもをしたり輪投げをしたりして遊んでいましたが、それにもあきてくると、近頃はやりだしたにらめっこを始めました。それは遠くの町からつたわってきた遊びで、これまでまだ村には知られてなかったのです。新しい遊びなだけに、子供たちは非常におもしろがりました。

「にらめっこしようか」

「しよう」

原っぱの中にみんなは円まるく輪をつくって坐りました。そして一しよにいいました。

だるまさん、だるまさん、

にらめっこしましょう、

わらうとぬかす、

一二三……うむ。

うむ……ときばつて、息をつめて、両手を膝ひざについて、眼を見張って、おかしな顔つきをしながら、ほかの者を笑わそうとします。初めにぷーとふきだした者は、すぐぬかされて、また「だるまさん」が始まります。そして一番おしまいまで残った者が勝ちなのです。

子供たちはそれを何度もくり返しました。

いく度目かにもたみんなで、「だるまさん、だるまさん」をやりだした時です。ふいに、頭の上で、空のまん中で、わはははははと大きな笑い声がありました。

おや……と思つて、息をつめたままで、上を見上げますと、森の上からぬーっと大きな顔がのぞき出して、それが空いっばいの大きさになつて、家のような大きな眼と鼻と口とで、わはははははと笑つています。とすぐに、その顔も笑い声も消えてしまつて、日の光のきらきらしてる青い空ばかりになつてしまいました。

「何だろう」

みんなびつくりして、それからふと恐くなつて、村の中へ逃げかえりました。

二

そういうことが時々おこりました。うっかり「だるまさんのにらめっこ」をしてると、空いっばいの大きな顔が頭の上で大きな声で笑うのです。びつくりして見上げると、そのとたんに顔も笑い声も消えてしまうのです。

初め子供たちはそれを恐りましたが、だんだん馴^なれてくると、かえつておもしろくなつてきました。顔が出て来ないと、何だかさびしいような気さえしました。

「今日はきつとあの顔が出て来るよ」

「出て来るかしら」

「出て来るとも。出て来るまでやろうや」

そしてみんなで、村のうしろの森はずれの野原にあつまって、円まるく輪になって坐りながら、「だるまさんのにらめっこ」を始めました。が何度やっても、空いっぱいの大きな顔が出て来ませんでした。みんなは意地いじっぱりになってなおやりつづけました。

するうちに、いつのまにどこから来たのか、見馴みなれない子供が一人、横の方につつ立って、にこにこしながらみんなの遊びを見えています。

みんなはふしぎに思つて、その子供を取りまきました。穀こくもつ物や野菜や牛や馬を買いに来る商人の外は、めつたに人がよそから来たことのない、へんぴな村なんです。それなのに、ひよっこり子供が一人出て来たのです。

「君は誰だい」

「どこから来たんだい」

「何しに来たんだい」

「一人で来たのかい」

そんなふうに、みんなはわかるがわるたずねました。けれどその見馴みなれない子供は、何

にも答えないで、ただにこにこ笑っているばかりでした。そしてやがて、ふいにいい出しました。

「僕もにらめっこにいられてくれないか」

「ああいいとも」

みんなは喜びました。そして見馴れない子供と一しよに、また「だるまさん」を始めました。

ところが、その見馴れない子供が強いものつて、どんなおかしな顔をしてても笑わないんです。二十人いたものが、一人ぬかされ二人ぬかされして、しまいには、一番強いので、「鬼おにがわら瓦」とみんなからあだなされている子供と、見馴れない子供との、二人つきりになりました。

「鬼瓦しつかりやれよ」

「初めて来たものに負けるな」

村の子供たちはそういつて、わいわいはやしたてながら、二人のまわりを取りかこみました。二人はきちんと坐つて、膝ひざの上に両手を握りしめて、身がまえをしました。

だるまさん、だるまさん、

にらめっこしましょう、

わらうとぬかす、

一二三……うむ。

まわりのものまでみんな息をつめました。二人はじつとにらめっこをして、どちらも笑い出しません。「鬼瓦^{おにがわら}」はほんとに鬼瓦のような顔つきをしてみせましたが、見馴^{みな}れない子供はびくともしませんでした。そしてるうちに、ふいに見馴^{みな}れない子供の鼻がびくびく動き出しました。が、「鬼瓦」の方も笑い出しません。するとこんどは、びくびく動き出した鼻が、ぬーつと長く伸びだしました。見ていたものはびくくりしました。が、「鬼瓦」はまだ笑い出しません。するとこんどは、長く伸び出た鼻が、「鬼瓦」の鼻先までやってきて、ゆらゆらふらふらとおかしな恰^{かっこう}好で踊りだしました。

とうとうたまらなくなつて、「鬼瓦」はぷーつとふきだしました。みんなはわつとはやし立てました。がふしぎなことには、見馴^{みな}れない子供の鼻は、勝つが早いかすつと引つ込んで、もとの通りになつてしまいました。

「ずるいや、ずるいや。鼻をあんなに伸ばすなんて、ずるいや」

「鬼瓦」はそういつてつめ寄つてきました。みんなもそれに味方しました。

「鼻を伸ばしといて踊らせるのはずるい」

見馴れない子供は、ただにこにこ笑っていましたが、みんなからずるいとあまりいわれますと、それじやも一度やり直そうといたしました。みんなも賛成しました。

「やり直そう、初めから……。鼻を伸ばすのはなしだよ」

そしてまたみんなは一しよに、「だるまさん、だるまさん」を始めました。ところが、最初に笑い出したものから順々に一人ぬけ二人ぬけしてるうちに、いつのまにか、見馴れない子供の姿が消えてしまったのです。

「おや、あの子供はどこへいったろう」

「いない。消えちゃった」

みんなはきよとんとしてしまいました。いくら探してもどこにも見えません。

「わははははは……」

頭の上で笑い声がありましたので、見上げてみると、空いっぱい大きな顔が笑っています。かと思うまに、すぐに消えてしまつて、青々とうち晴れた大空ばかりになりました。

みんなはぼんやり空を見上げていましたが、次にはおかしくなって、くくくくつと、それからあはははつと、声をそろえて笑いだしました。

三

子供たちはおもしろがつて、その話を村の大人たちおとなにしました。大人たちの方では、そんなことがあるものかと思つて、初めは本当にしませんでした。子供たちが皆本当だといひますし、見馴みなれない子供が出て消えたことなどを聞くと、そのままうっちゃつてもおられないと思ひ始めました。なぜなら、それを悪い鬼おにのせいだと考えたのです。

「それは悪い鬼にちがいない。悪い鬼がやつて来て、子供をさらつてゆくつもりで、初めはまずそんなふうには、子供をだまかしてゐるんだ」

「そんなことはないよ。もし鬼だつたら、おもしろい鬼だよ」

そう子供たちはいい張りましたが、大人たちはききませんでした。そして鬼退治おにたいじを始めめることに相談をきめました。

子供たちは悲しくなりました。けれど、大人たちがむりにいうものですから、仕方しかたなし

に例のところへ行つて、「だるまさん」を始めました。

大人たちは、そうして子供たちを遊ばしといて、自分たちの方は、まだ鉄砲のない頃でしたから、弓や石投いしなげ機械かがいや刀や棒など、てんでに何か武器を持って、森の木の陰や村の家の陰なんか隠れて、今に鬼が出て来たら、打ち殺すかしばりあげるかしてやろうと、じつと待ちかまえました。

子供たちは、いやでいやでたまりませんでした。あんなおもしろい鬼を悪い鬼だなどと言つて大人たちがそれを待ち伏せふしているのが、気になってしょうがありませんでした。それでも大人おとなたちのいいつけですから、どうすることも出来ないで、心ならずもにらめっこをしました。だけど、もう笑うものなんかあまりなくて、長くにらめっこをしていると、笑うかわりに泣き出すものさえありました。

するうちに、だんだん子供たちはやけになつてきました。みんな立ち上がつて、輪になつてぐるぐる廻りながら、大声にどなりました。

だるまさん、だるまさん、

にらめっこしましょう、

わらうとぬかす、

一二三……うむ。

うむ……と緊張きばつて、立ち止まってにらめっこをします。が誰も笑い出すものがありません。でまたぐるぐる踊り廻つて、「だるまさん、だるまさん」をくり返します。そのちようしが次第しだいに早くなつて、もう踊りっこをしているのか、にらめっこをしているのかわからなくなつて、夢中にぐるぐる廻りました。

と、突然、わはははははと大きな笑い声がありました。はつと思つて見上げると、空いっぱいぱいぱいの大きな顔が笑っています。かと思ふまに消えてしまつて、しいんとなりました。とこんどは、はははははと大ぜいの笑い声が聞こえました。

おとな大人たちが武器を手にしたまま、ぼんやり空を見上げて、声を揃そろえて笑っているのです。大人たちは初め、その空いっぱいの顔の鬼おにを退治たいじするつもりでしたが、子供たちのにらめっこや踊りっこがあまりおもしろいので、それに氣をとられているうちに、いきなり空いっぱいの顔が出て来て大笑いをし、すぐに消えていつて、まっさおな大空とうつくしい日の光とだけになつてしまつたものですから、ぼかーんとして、思わず笑つてしまつたの

です。

それを見ると、子供たちもわーっと笑い出しました。

その後、空で笑うのはきつと天狗てんぐだろうと誰かがいい出しました。そしてそれを天狗てんぐ笑らいと皆はいうようになりました。夏の晴れた日なんか、野原に出て、「だるまさん、だるまさん」をやりながら、日の光のきらきらした青い空を見ると、空いっぱい大きな顔でわははははと、天狗笑がすることがあるそうです。

青空文庫情報

底本：「豊島与志雄童話集」海鳥社

1990（平成2）年11月27日第1刷発行

入力：kompass

校正：門田裕志、小林繁雄

2006年4月29日作成

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<http://www.aozora.gr.jp/>) で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

天狗笑

豊島与志雄

2020年 7月17日 初版

奥 付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail info@aozora.gr.jp

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
<http://tokimi.sylphid.jp/>